

事業報告書

I. 事業の概要

公益法人として第1期となる平成24年度は、

1. 奨学事業として
 - (1) 県内在住17名の高校奨学生及び大学院奨学生（医学部5回生）に対し、奨学金を給付した。
 - (2) 奨学生同志の交流を深めるため懇親会を2回開催し、内1回は日本の古典文化に触れる機会として、能楽についてのお話の会を設けた。
2. 創設40周年記念事業として、養老孟司東京大学名誉教授の講演会を開催した。
3. 東北3県の東日本大震災こども支援基金に寄付を行った。
4. 奈良県立橿原考古学研究所へ学術研究の為の書籍を寄贈した。

II. 事業活動

1. 奨学金事業

- (1) 本年度は、新採用の5名を含めて計17名の高等学校奨学生に対し月額3万円、1名の大学院奨学生(医学部5回生)に対し月額10万円の奨学金を給付した。

(2) 懇親会

《第1回》

平成24年8月25日開催	在学奨学生	14名	・	卒業生	12名	/	計	26名参加
--------------	-------	-----	---	-----	-----	---	---	-------

・恒例の行事に加えて、午後から、現在JICA（独立行政法人国際協力機構）の職員として国際的な仕事に携わっている卒業生（東京在住）に出席を依頼し、赴任地であったケニア、インドネシア等の現状や仕事を通して見えてくる日本という国について話してもらい、講演後、皆で「日本」という国について考える機会を設けた。

《第2回》

平成25年3月30日開催	在学奨学生	16名	・	卒業生	8名	/	計	24名参加
--------------	-------	-----	---	-----	----	---	---	-------

・この会は、恒例の行事に加え、午後から日本の古典文化に触れる機会として、無形文化財指定保持者である能楽師シテ方の小林慶三さんを迎えて、能楽についての講演後、奨学生の中から男女各1名に能装束を着付けてもらった。能楽には、舞台上で演じられていることだけでなく見えない裏側にも日本文化が存在し、継承されてきていることを目の当たりにできる機会となった。

2. 創設40周年記念事業

(1) 事業の開催状況報告

事業名	公益財団法人修徳会創設40周年記念事業講演会
演題	『これからを生きる君達へ』
講師	養老孟司東京大学名誉教授
事業の趣旨	当財団が行っている奨学金事業の対象である県内の高校生に、社会で活躍されている人生の諸先輩の方々のお話を身近に聴くことで、今の自分自身を感じながら、これからの自分を考える機会を提供する。
事業の開催日時	2013（平成25）年3月25日（月） 午後2時開演 午後4時10分終演
場所	修徳ビル地下スペース（奈良市登大路町5番地）
入場料	全席招待により入場料は無料（募集人数 60名 応募数 52名）
当日の入場者数	49名 [内高校生 46名、奨学生卒業生3名] その他役員
当日の事業概況	脳科学にとどまらない数多くの著書や講演、そしてその他にも幅広く活動をなさっている養老先生のお話を聴かせていただくことにより、今の自分自身を感じ、これからの自分を考える機会になればという事業の趣旨にそった意義のある講演会となった。講演会の対象を高校生に限定したことで募集定員には至らなかったが、希望者ばかりの会場は、前回同様、開演前から先生のお話を聴かせていただく空気感で満ちあふれていた。講演は予定の1時間15分を大きく上回り、質疑応答の時間も30分以上となった。今回は、事前に養老先生の著書を読んだ上で参加した高校生が多かったようで、質問も講演内容だけでなく著書の中からも多くあり、「環境のとらえ方」、「平和とは・・・」、「人を殺してはなぜいけないのか？」等、重く深い内容が続いた。 講演後のアンケートからも、参加した高校生にとって気付いたり考えたりできる時間となったことが伺える。

3. 東日本大震災子ども支援基金への寄付

- ・東日本大震災義援金として、岩手県、宮城県、福島県に寄附をした。

寄附金先
いわての学び希望基金
宮城県保健福祉部子育て支援課
ふくしま子ども寄附金

4. 奈良県立橿原考古学研究所へ書籍の寄贈

- ・学術研究の為の書籍購入費としての「預け金」を奈良県立橿原考古学研究所に下記の通り送金した。